

発達障害のある人は、学習や行動、社会性などの発達がアンバランスなため、学校や社会生活で困難さが生じてしまいます。見た目には分からないので、本人の努力不足と見られたり、親のしつけが悪いと言われてたりすることもあります。

このリーフレットは、発達障害のある子どもの保護者の方だけでなく、すべての皆さんに発達障害について理解を深めていただくために作成しました。

# 知ってほしい発達障害のこと

## 発達障害 の 特性

### LD (学習障害)

- 聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち、特定のものが極端に苦手
  - ・読むが遅い。飛ばし読みをする。
  - ・漢字を覚えるのが苦手。
  - ・書いた文字のバランスが悪い。鏡文字になる。
  - ・計算が苦手。図形の学習が苦手。
  - ・手先が不器用。



### ASD (自閉症スペクトラム障害)

- 社会性、コミュニケーションの弱さ
  - ・視線が合わない。一人遊びが多くマイペース。
  - ・他者の立場で想像することが苦手。
  - ・言葉の裏の意味の理解が困難。
  - ・思いついたことを悪意なくストレートに相手に言うてしまう。
- こだわりの強さ
  - ・興味や関心が特定のものに限られる(執着する)。
  - ・予定の変更など、変化を極端に嫌がる。
- 感覚の過敏さ・鈍感さ
  - ・特定の臭いや音を嫌がる。
  - ・触られることを極端に嫌がる。

### ADHD (注意欠陥/多動性障害)

- 不注意
  - ・忘れ物が多い。片付けや整理整頓が苦手。
  - ・集中が途切れやすい。
  - ・好きなことに集中しすぎると切り替えが困難。
- 多動性
  - ・落ち着きがなく、じっとしていることが困難。
- 衝動性
  - ・思いついたらすぐに行動してしまう。
  - ・順番を守ることが困難。

※「自閉症スペクトラム障害」は、以前は「高機能自閉症」、「アスペルガー症候群」、「広汎性発達障害」などと呼ばれていた障害のことです。



## ● 例えばこんなことが...

※ 発達障害の現れ方は、人それぞれ違います。ここに紹介しているのはその一部です。

- 自分が好きなもの（電車やテレビ番組など）を何度も繰り返し見たり、好きなものについて、相手が興味を持っているかどうか気にせず話し続けたりします。



自分は「ダメ」なの...?



ダメだよ

- 友達や年下の子どもが相手でも、必要以上に丁寧な言葉で話したり、相手に極端に近づいて話したりします。冗談のつもり言葉に深く傷ついてしまうこともあります。

- 文字を書くのが苦手で、漢字や作文の宿題がなかなか終わりません。ノートをとるのにも時間がかかります。中学生や高校生になっても課題の提出が遅れてしまうことがあります。



チャイム鳴ったよ!

- 整理整頓が苦手で、気をつけているつもりでも忘れ物や物をなくすることが多くなります。熱中すると声をかけても気づかず、休み時間が過ぎても遊んでいることがあります。

- 先生が指名する前に出し抜けに答えたり、思いついたことをすぐに口に出したりします。授業中でも気になることがあると、急に席を立ってしまうこともあります。

先生！○○君が！



## ● 原因は？

現在では、生まれながらの脳の機能障害が原因と考えられています。その症状は、通常、小さな頃から現れますが、高校生や社会人になって初めて気づかれる場合もあります。

**本人の努力不足や保護者の育て方が原因ではありません。**



## ●『良い面が』がたくさん

気づくきっかけの多くが学校や家庭での「困ったこと」なので、どうしても良くない面に目が向きがちですが、良い面もたくさん持っています。

- ・創造性が豊かで、独創的な発想ができる。
- ・感情が豊かで、人の役に立つことが好き。
- ・正義感が強い。
- ・行動力がある。
- ・好きなことに抜群の集中力を見せる。
- ・論理的な思考で、理数系の学習が得意。
- ・抜群の記憶力を持つ。
- ・パソコンなど、機器類の操作が得意。



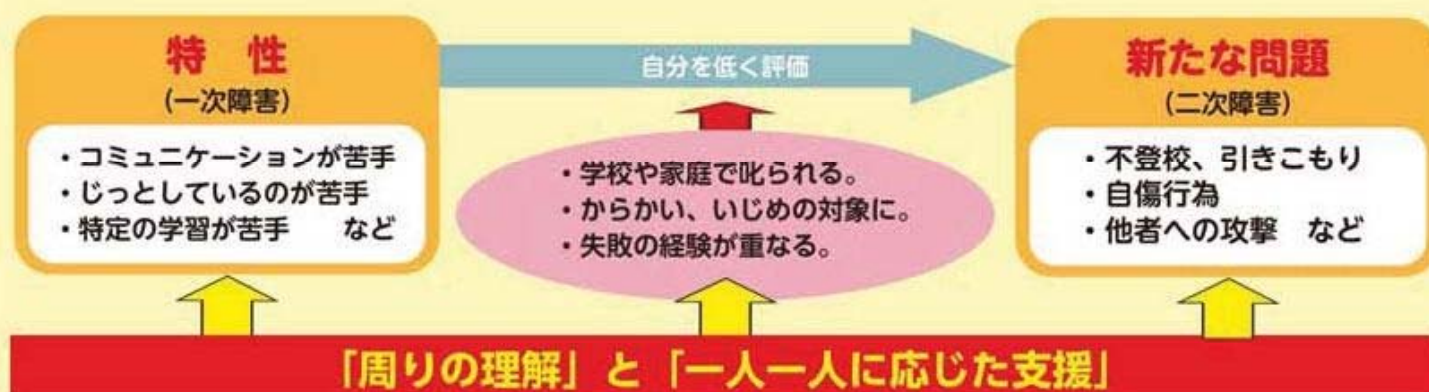
## ●周りの理解と支援が必要

外見では気付かれにくいいため、「努力不足」、「わがまま」、「しつけが悪い」などと誤解され、周囲から厳しい態度をとられがちです。

すると、本人は「何もできない。」「いつも叱られる。」と、自信を失ったり、自分を低く評価したりすることが多くなります。

自分を低く評価すると、自分や周囲に対して否定的、攻撃的な言動をとるようになり、周囲との関係を求めなくなったりといった、新たな問題が生じることがあり、これを「二次障害」と呼びます。

こうした「二次障害」を防ぎ、子どもの「長所」をより伸ばしていくことが大切です。そのためには、できるだけ早期に周囲の人たちが子どもの特性を理解し、支援につなげていくことが必要です。



周囲との違いに一番困っていて、何とかしたいと思っているのは、本人やその保護者です。周囲にいるすべての人が発達障害について理解を深めることで、発達障害のある子ども、その保護者、そしてすべての子どもの笑顔につなげていきましょう。



## 気になったときには、ご相談ください。

公立の幼稚園、小・中学校、高等学校では、必ず「特別支援教育コーディネーター」が指名されています。

お子さんについて、「ちょっと気になる」ことがあるとき、お子さんが学校で何か「困っている」ときは、お住まいの市や町の教育委員会や、担任の先生が「特別支援教育コーディネーター」に相談することができます。

特別支援教育コーディネーターは、学校内の関係者や外部の関係機関との連絡調整役、保護者に対する相談窓口、担任への支援、校内委員会の運営や推進役といった役割を担っています。

家庭と学校で  
様子が違う場合  
もあるので、学  
校と情報を共有  
することが大切  
です。



## 「障害のある子どもの学校生活支援事業」をご活用ください。

佐賀県教育委員会では、学校からの要請に応じて、特別支援学校の巡回相談員や医療・福祉機関等の専門家を派遣し、専門的な助言等を行っています。

保護者の方から学校へ依頼し、巡回相談を受けることもできます。

詳しくは、各学校の担任の先生や「特別支援教育コーディネーター」にお尋ねください。

## 知ってほしい 発達障害のこと

発行者 / 佐賀県教育委員会

編集 / 佐賀県教育庁教育振興課特別支援教育室

TEL 0952-25-7475